# 8.普門院地蔵堂～鹿嶋吉田神社コースガイド

延方干拓排水機場公園→地蔵河岸の常夜燈→普門院地蔵堂→
ＪＲ延方駅→延方公民館のクスノキ→鹿嶋吉田神社→ＪＲ延方駅
→海道地船越地蔵→延方干拓排水機場公園

集合場所：延方干拓排水機場公園

水郷潮来観光ボランティア連絡協議会

**普門院地蔵堂～鹿嶋吉田神社　コースガイド　【所要時間】約２時間**

延方干拓排水機場公園（トイレ）→地蔵河岸の常夜燈→普門院地蔵堂→ＪＲ延方駅→延方公民館のクスノキ（トイレ）→鹿嶋吉田神社→ＪＲ延方駅→海道地船越地蔵→尾崎菓子店→延方干拓排水機場公園（トイレ）

（１）延方干拓排水機場公園

正式名称は「潮来土地改良区事務所農林水産省排水機場」です。

延方干拓を記念する勲一等橋本登美三郎書の【国土豊穣】の石碑と延方干拓土地改良区理事長橋本義衛の【沿革】の石碑があります。又、延方干拓の歴史・経緯や写真等の掲示もあります。

例年３月に鹿行４市で行われる、１００kmウルトラマラソンの潮来市メイン給水所になっています。

↓３０分

（２）地蔵河岸の常夜燈（潮来市指定文化財）

造立は文政元年（１８１８年）で現存する市内の常夜燈では最も古いものです。

洲崎前の水路は、古来より水難事故が多く、洲崎地蔵堂は信仰の対象として崇拝されるのみならず、その灯籠は夜間航行上また、人々の生活上重要な役割を果たしました。

昭和２５年頃までは、地蔵河岸は前川に面し船着き場があり、数多の物資を積んだ貨物船や高瀬舟が出入りし、賑わいを見せていたとのことです。昭和３０年代後半前川の干拓事業が始まるとともに、その役目を終えこの常夜燈が地蔵河岸の名残を僅かに残しています。

又、曽尼駅屋が大生神社、延方小学校の裏山の駅屋を結ぶ「古代道」を推定すると、往古より重要な場所であったと推定されます。

↓５分

（３）普門院地蔵堂（潮来市指定文化財）天和３年（１６８３年）起工。御本尊は船越地蔵。

地蔵河岸は水難事故が多い場所で、真言律宗僧の忍性が鹿島神の御神託を受け、建長４年（１２５２年）に鹿島神宮の御神木で地蔵３体を刻み、鹿島の普済寺、大船津の普渡寺、延方洲崎の普門院に安置しました。

地蔵堂の建築細部様式は、いずれも木太く風格堂々としたもので明らかに室町時代末期の特色を示しています。

↓ＪＲ延方駅経由２５分

（４）延方公民館のクスノキ（潮来市指定天然記念物）

↓１０分

（５）鹿嶋吉田神社）

御祭神は鹿嶋神社が武甕槌命（ﾀｹﾐｶﾂﾞﾁﾉﾐｺﾄ）、吉田神社が日本武命（ﾔﾏﾄﾀｹﾙﾉﾐｺﾄ）です。かつて古高には国上神社と鹿嶋神社をひとつにした社殿がありました。それが鹿嶋神社だけ今の場所に移され、それぞれ独立した神社になったという珍しい由緒です。鹿嶋神社は大同元年（８０６年）の創建と極端に古いですが、周辺情報から考えると 14 世紀頃だった可能性が高そうです。吉田神社の創建年代は不詳となっていますが、元の鎮守地は諏訪ケ原（現在延方ウエルシア）で洲崎村の産土神（うぶすながみ）でした。

①延方相撲

江戸時代徳島一帯では漁場をめぐる紛争や農耕地の利権論争、耕作権の問題など紛争が絶えなかったが、寛文12年(1672年)7月27日、この紛争に対して江戸幕府評定所より「この地は水戸南領に属す」という裁決がありました。 村人はこれを喜び合い、寛文13年(1673年)相撲祭を延方村鎮守鹿嶋吉田神社に奉納したことに始まり、江戸勧進相撲の格式をもって今日に伝えられています。

延方相撲は鹿嶋吉田神社の祭礼として開かれる行事で、300年以上の歴史を数え、県の無形民俗文化財指定されています。地元にゆかりのある未就学児童が取り組みを行う「花相撲」で始まります。泣き出したり土俵から降りてしまったりドキドキハラハラする取り組みは必見です。その後は神社境内に築かれた土俵で「二番勝負」「一番勝負」「新手二人がかり」「小三番」「大三番」など古式の取り組み 48 番がとり納められます。現在は毎年７月の最終日曜日に開催されています。

↓ＪＲ延方駅経由２５分

（６）海道地船越地蔵（潮来市指定文化財）

寛政４年（１７９２年）地蔵河岸沖で修行僧数人を乗せた鹿島大船津行の渡船が高波をかぶって沈没し全員死亡したため、船頭の遺族と地蔵河岸の人々が回向のため碑を建立したものと言われています。

この地は追分ともいわれ、古くは小泉や古高から鹿島に出る通り道で地蔵河岸から渡船で鹿島に渡る重要な道路の分岐点であった所です。

↓２５分

（７）延方干拓排水機場公園